

令和4年 第14回 伊丹市教育委員会 定例会 会議録

1. 日 時 令和4年（2022年）10月28日（金）午後2時00分～午後2時30分

2. 場 所 総合教育センター 2階 講座室

3. 出席者 <教育委員会>

教育長	木下 誠	教育委員	瀧川 光治
教育委員	太田 洋子	教育委員	西岡 奈美
教育委員	二宮 叔枝		

<事務局>

教育総務部長	馬場 一憲	保健体育課長	宗野 伸哉
学校教育部長	廣重久美子	総合教育センター所長	永嶺 香織
こども未来部長	大野 浩史	小学校給食センター所長	鴨川 憲之
生涯学習部長	浜田 律子	社会教育課長	中田美智世
こども未来部参事	岡田 章	社会教育課主査	吉田 卓
人権教育室長	須磨 昭文	教育政策課長	西原美絵子
職員課長	福本 恭	教育政策課主査	中谷 克也
学校指導課長	日外 亮	教育政策課主任	中井亜里紗

4. 欠席者 なし

5. 傍聴人 なし

6. 議 事

(1) 開会宣言 木下教育長（午後2時00分）

(2) 日程報告 木下教育長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員はこれを了承。

日程第 1 令和4年第13回臨時会会議録の承認

日程第 2 教育長報告

(3) 令和4年第13回臨時会会議録の承認（日程第1）

第13回伊丹市教育委員会臨時会（令和4年（2022年）10月7日（金）開催）会議録については、全委員一致でこれを了承。

(4) 教育長報告（日程第2）

「10月人事報告」・「9月分教育施設関係工事の着工・竣工報告」・「9月分の寄附採納報告」・学校教育部及びこども未来部、生涯学習部、人権教育室、市立伊丹高等学校の「9月分行事实施報告」・「11月分行事实施予定」について、それぞれ説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「教育長報告」を承認。

質疑応答

太田委員

3点お伺いしたい。1点目は、総合教育センターのICTにかかる来年度予算について、ほとんど予算措置されていなかったため一定落ち着いたのかと思うが、今後に向けて、何か考えないといけないことがあるのかどうか。2点目は、今保護者との連絡ツールとしてGoogleを使用しているが、以前のミマモルメに比べ、送信に時間がかかることをよく聞く。その辺りについて、そのような状況があることが情報として入っているのかどうかお伺いしたい。3点目は、タブレットの破損が多いと新聞報道でも出ているが、伊丹市でどのような状況なのかお伺いしたい。

総合教育センター所長

1点目のICTにかかる来年度予算については、大きくは計上していない。ただ、今後は端末の更新が決まっているため、令和5、6年度にかけて、計画的に考えていくべきものだとは思っている。2点目のGoogleの件は両方の意見を聞いている。学校によって、Googleは汎用性があることから色々なものに使えるという意見と、これまでのシステムに慣れているため少し使いづらいという意見もある。できる限り総合教育センターからもICT支援員が支援をさせてもらいながら対応している。Googleについては、令和2年度に導入したものであるため、当面は運用していくという形で考えている。3点目のタブレットの破損であるが、やはり総合教育センターにも破損の報告があり、修繕をかけているところである。ただ、割合的に見ると、先行して導入していた市に破損の割合を確認したところ、約2%ということであったが、現在の伊丹市においては1%台であり、驚くほどの破損であるとは認識していない。しかし、これから活用範囲が広まっていくため、破損も増えていく可能性はあると考えている。

太田委員

現段階では予算の範囲内で対応できているということか。

総合教育センター所長

おっしゃる通りである。現在、破損した際には、総合教育センターにある予備機で対応している。ただ、予備機は、破損時だけでなく、転入時にも渡すことを想定して運用しているため、

万が一不足するようなことであれば、関係部署へ相談の上整備していく。

太田委員

市役所は、新庁舎後にクラウド化されるようであるが、学校は総合教育センターのサーバーである。授業用は、ある程度クラウド化されてきている。しかし、今後、ミライシードのドリルやデジタル教科書、みんなの学習クラブや学習支援システムが導入されるとなると、ID やパスワードがばらばらである。学習 e ポータルというところで、統一できるように考えていく必要もあるのではないかと思う。今後、その辺りを視野に入れていただきたい。そして、教員が自宅で仕事ができるように、教員の校務システムについてもある程度クラウド化しておく必要があると思う。その辺りについて、導入されている市もあると聞いたことがあるが、何か情報はるか。

総合教育センター所長

校務システムについては、例えば、SKYSEA のようなシステムを導入し、自宅からでも仕事ができるように対応している市もあると聞いている。伊丹市においては、セキュリティポリシーの改定等も含めて検討していかなければならないと思う。

太田委員

今後は、働き方改革も踏まえて、自宅でも仕事ができるような環境の整備も検討していただけたらと思う。また、学習 e ポータルの辺りも含めて、システム化やクラウド化に向けて予算化することも検討していただけたらと思う。

総合教育センター所長

総合教育センターのサーバーの更新が令和7年度を予定している。その更新の中で、大きなシステムの構築というところが可能になってくるかと思う。そこに向けて、現在、総合教育センターでは準備をしているところである。

太田委員

総合教育センターの学校力アップ事業について、発表する場を作ることは良いと思うが、学校によっては、学力や子どもの満足度等、数値が変わらない中で発表しているところもある。やはり、成果があつての発表であると思う。成果がないのであれば、発表をずらしても良いのではないかと思うが、総合教育

センターとして考えていること、また、学校への支援やアドバイスはどのようにしているのか教えていただきたい。

総合教育センター所長

総合教育センターとしては、学校力アップ事業では、研究の進捗状況を把握するために指導員や指導主事が学校訪問をしている。その中では、発表校と準備校が1、2校あるが、そこで話す内容や聞き取る内容を分けた形で確認している。そして、研究の進捗状況が気になる学校については、その状況に応じた対応策や講師の紹介をさせていただいたりしながら進めている。

木下教育長

研究発表会はとても大事だと考えている。まず、そこでは、自校の課題がどのようなことであるのかという点に着目している。自校の課題の改善に資するものであるべきであり、その課題に対して、どのような取り組みをしてきたのか。そして、その取り組みによってどのように変わってきたのかということが大切である。やはり、客観的なデータは大切で、全国学力学習状況調査における75項目の課題に当てはまる項目を全てチェックしている。その中で、伸びている状況を成果として捉えている。今年は11校が研究発表会の対象となっているところ、個人的には、総合教育センターから上がってくるデータでは手応えを感じている。

太田委員

伸びている部分が明確に分かれれば良いと思う。例えば、研究紀要等で、不登校が減少したこと、意欲が向上したことや自尊心が伸びていること等、明確にならなければならないのではないかと思う。その辺りをきちんとアドバイスしていただき、課題に対しての成果を発表できる形にしていだけたらと思う。

木下教育長

私自身もその点は意識している。まず、自校の課題を明らかにし、その課題に対してどのような対策を講じてきたのか。そして、その結果はどうであったのかということ客観的なデータで確認している。もう1点、先程のGoogleについて、学校では2つの意見があるということであったが、総合教育セ

ンターとしてはどちらが良いと考えているのか。

総合教育センター所長

市としては、デジタル化を進めるというところのミッションから、市内の就学前施設と学校全てを一体化したシステムを導入している。そのため、今後は、改善等を加えながら、Google を活用していく形で考えている。

西岡委員

前回の定例会において、学校を休んでいる子どもをオンラインで繋ぐことについて、学校間で差があるという話があったが、そのあとの進捗状況をお伺いしたい。

学校指導課長

定例会後に、オンライン対応ができていない学校に指導主事を派遣し、学校の様子や校長の意見を聞いてきた。ハード面は整っているため、実際に動かしていくかどうかという判断の辺りを詰めていきたいと考えている。

木下教育長

今どのようになっているのか。

学校指導課長

今のところはオンラインで繋ぐことは考えていないが、子ども一人ひとりの実態に応じた対応をしていくと聞いている。学校指導課でもこれからの動きを注視していく。

木下教育長

あの後、すぐに、学校教育部長から学校長にこのような意見があるということを伝えていただいた。色々に対応を検討してもらおうということだったと思うが、間違いはないか。

学校教育部長

授業をそのまま流すということも一つの方法ではあるが、そのことだけではなく、スクールタクトや家庭訪問等、様々な方法を使いながら対応しているという回答であった。様々な課題を抱えた子どもがいる中で、全ての学級で、授業をそのまま流すという統一した対応ではなかなか難しい状況にある。引き続き、子どもに寄り添えるように、学校全体で様々な方法を駆使しながら対応していくと聞いている。

木下教育長

具体的なアクションは何かあるのか。

学校教育部長

スクールタクト等のツールは使用している。授業をそのまま流すということについては、全国的に見ても、効果やニーズをなかなか掴めていないところがあるものの、引き続き、できることは取り組んでいく。

木下教育長

いつまでに何をするのかを明確にしておかなければ、ずるずると時間は経ってしまう。令和3年度の「問題行動・不登校調査」では、全国小中学校の不登校児童生徒数が24万人であるという結果が出ている。これは由々しきことであり、国においても、学校だけが学ぶ場ではないとされている。やはり、24万人の子どもにとっても、そのような学びの場があることはとても大切なことであると思う。この点も踏まえて、具体的なことを考えていかないといけない。

西岡委員

現状、オンラインで繋ぐことができない理由の一つとして、一人だけにそのような対応をするわけにいかないという学校もあったが、一人であっても一度トライしてみることで課題点も見えてくると思う。合唱コンクールを各教室にオンラインで開催していた学校もあり、オンラインに対して前向きな姿勢である学校と、そうでない学校の間で温度差があるように感じた。どの学校であっても、同じような環境が整備されていければと思う。

学校教育部長

まだオンライン対応できていない学校についても、できるところからということで、文化祭はオンラインで実施したと聞いている。なかなか、色々な子どもを抱えていることもある中、それでもできることはするということで進めていると認識している。その一つとして、文化祭は形になったのではないかと思う。

木下教育長

教育の機会均等という視点からも、あまり格差がないようにしていかなければならない。教育のデジタル化としている以上は、謳い文句だけではなく、具体的な取り組みをしていかないといけない。

二宮委員

学校支援ボランティア養成講座についてお伺いしたい。コミ

ユニティ・スクールに行くこと、先生方に困っていることを聞いている場面を見る。この講座は、複数回実施されてきていると思うが、要望があって開催されているのか。また、園芸や図書以外には、どのようなことをしているのか。こういった講座のように、学校を支援するきっかけづくりになる場は必要であると思う。定期的に開催しているのであれば、今後も続けてほしい。

社会教育課主査

ボランティアについては、園芸と図書を中心に、活動してくださる方がたくさんいるため、年1、2回、そのような方に向けたスキルアップやモチベーション維持等をテーマとした研修を企画している。ボランティアのきっかけづくりという部分においても、スキルを上げていただき、たくさんの人を巻き込んでいけるようにしていくことができるように、このような研修を企画している。日頃の活動の中で要望をいただくこともあるが、ボランティアの意義やモチベーションを上げていけるような研修を検討しながら進めているところである。

木下教育長

各校では、学校長と推進委員で、毎年の計画づくりをしていると思う。学習習慣の確立、基礎学力の向上や豊かな人間性の向上という三つの柱で、様々なことに取り組んでいただいている。その中で、今のような要望をきちんと伝えていかないといけない。ぜひ、そのような意見を改善に生かしてほしい。

太田委員

市高の修学旅行が、海外が難しいため長崎になっていると思う。中学校が長崎であるが、行先は今後も変更はないのか。

学校指導課長

毎年見直しをしていると思うが、その辺りは伝えさせていただく。

(5) 閉会宣言 木下教育長 (午後2時30分)

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育長 木下 誠

伊丹市教育委員会委員 太田 洋子